

学校、家庭、地域で 人づくりの教育施策を

◎真鍋議員 学校、家庭、地域社会が三位一体となった人づくりの教育施策を有識者会議や市内部の検討会で策定し、市の教育に反映してはどうか。

▲教育長 教育は学校だけで行われるのではなく、家庭や地域など、社会全体で取り組むことが大切であると強く考えている。本市の小中一貫教育はまさに学校、家庭、地域が一体となった教育施策として大きな役割を担っており、子供たちが各地で伸び伸びと成長できるよう、皆様の御協力をいただきたいと考えている。

農業への不安解消 農産生産力の強化を

◎横川議員 米の新品種を拡大すれば、販売価格の増収につながるのか。また、どのように麦の生産拡大を推進するのか。

▲産業文化部長 県産の米、おいでまいは平成23年度より試験

栽培、本年度より一般栽培が開始された。良質な米生産ができる品種として、1俵当たり約千円の収益増が見込まれ、今後の市場評価の向上によっては、さらなる販売価格の増収につながる。麦の生産拡大については、国、県の生産調整に係る助成制度の周知を徹底し、新規栽培者を掘り起こし、県、JAなど関係機関と連携し、推進したい。

香川の希少糖を 学校給食に

◎山本議員 香川大学を中心に地元産の産学官で研究開発を進めている希少糖は、食後の血糖値上昇抑制効果があると報告されている。年に一度でも希少糖を使った給食は実施できないか。

▲教育部長 学校給食は安価な給食費で賄っており、高価な食材の使用は他の食材への影響も考えられる。給食用食材の購入は、学校給食物資購入委員会で毎月入札、選定をしているが、栄養教諭の指導の下、献立作成を工夫し、合理的な物資調達に努めながら、希少糖をデザートなどに使用できるように、物資購

入委員会に諮っていきたい。

市民ひろば噴水停止 市の認識は

◎三谷議員 市民ひろばの噴水が使用されなくなつて久しい。市は芸術的にも評価せず、修復する価値もないと考えるのか。

▲都市整備部長 噴水は市民ひろばの主要な施設であり、背景の丸亀城の石垣とも調和するよう設計され、デザイン、構造とも素晴らしいと認識している。しかし整備から約40年が経過し、県内の慢性的な渇水時に水を使用することへの配慮もある。また、老朽化が著しく修復は困難である。今後、市民ひろば全体の改修、大手町地区周辺公共施設の再編計画などと併せ、撤去も視野に入れて検討したい。

ふれあい戸別収集 委託から市の直営に

◎水本議員 ごみのふれあい戸別収集は外部の委託業者が行っているが、市の職員による直営で運営されるべきではないか。

▲市長 ふれあい戸別収集は、

ごみを収集場所まで持ち出すことが困難な世帯に対し、戸別にごみを収集することを主たる目的とし、併せて本人の希望に基づき、声掛けによる安否確認を行っている。現状の地域を所管する委託事業者による制度の運用で不足はないと考えるが、多様な市民ニーズに応えるため、今後制度の見直しを行う際には、関係者と協議し、運営する主体を含め、総合的に検討したい。

城南・平山保育所稼働率 現状で良いのか

◎小野議員 新設の城南保育所や平山保育所の受け入れ児童数が今のままで稼働率が低くともなれば、市民の貴重な財産が無駄に失われるのではないか。

▲市長 城南保育所と平山保育所は、地域に根差した保育所であると同時に、耐震改築工事により、入所時の安全確保と保育環境が整った保育所である。年度途中に入所希望があつても入所できない近隣保育所の受け皿として、積極的に受け入れたい。さらに、平山保育所では、土曜保育の充実、延長保育やゼロ歳

児保育の導入など、早急に入所児童が増える策を検討する。

市民の戦争体験

若い世代へ伝えよう

◎藤田議員 市民から募集した戦争体験記を広報紙やホームページなどに掲載して、戦争を知らない世代が学べるような取り組みをしてはどうか。

▲総務部長 これまで終戦記念日である8月号の広報紙に戦争体験談を募集し、平和について考える記事の掲載を行ったことはあるが、今後も、広報紙やホームページを活用し、終戦後の節目となる時期や機会を捉えて、戦争の悲惨さを伝えていきたい。さらに、収集した貴重な資料を図書館等で体系的に整理、閲覧し、市の戦争記録を全て学ぶことができる工夫をしたい。

産砂の幹線排水路

整備の考えは

◎大前議員 土器町東地区の雨水を強制的に排除する産砂ポンプ場に流れ込む幹線排水路は老朽化が進んでいる。今後、排水

路の改修など、早急に内水氾濫による被害解消へ総合的な対策に取り組んでもらいたい。

▲上下水道部長 土器雨水幹線1号は、雨水排水対策上、重要な水路である。また、関係3課で協議したところ、優先的に改修を実施すべき排水路という位置付けを行った。事業化に向け、積極的な姿勢で努力していくが、排水路改修は地元の協力なくしては推進できない事業なので、ご支援をお願いする。

駅前 の 県道整備で

中心市街地活性化を

◎片山議員 JR丸亀駅から南へ京極通り交差点までの県道を、歩行者優先の2車線の道路として再生すべきではないか。

▲市長 駅前からの県道も、丸亀駅から丸亀城へのルートであり、2車線の道路空間とし、広い遊歩道を整備することによって、歩いて楽しく居心地のよいアメニティ空間が創出できる。また、丸亀駅前南地区整備計画区域への民間施設誘導にもつながり、中心市街地のにぎわいが創出されると考える。今後、関

一般質問

係機関と協議を行いながら、適正な時期に道路管理者である県へ要望を行っていきたい。

廃食油を回収し

有効活用の考えは

◎福部議員 家庭から出る廃食油を回収し、バイオディーゼル燃料に精製し、ごみ収集車の燃料とするなど有効活用している自治体が県内にもある。本市でも廃食油の回収に取り組むとともに、バイオディーゼル燃料を市のごみ収集車に利用するなど、普及促進に努めてはどうか。

▲市長 循環型社会の形成に向けた新たな取り組みとして、廃食油の回収方法や回収拠点などについて先進事例や課題を分析し、調査研究していきたい。また、廃食油の回収方法が確立されれば、ごみ収集車等への利用も含め、検証していかなければならないと考えている。

ふるさと納税

使いみちの拡充を

◎佐野議員 ふるさと丸亀応援寄附金（ふるさと納税）を母校

にしたいと思う人に伝えるため、同窓会の場などでPR活動をすることはできないか。また、寄附金の使いみちとして母校への寄附という項目を入れることはできないか。

▲市長 制度開始から5年を経過しており、より効果的な手法について検討が必要だと考えている。母校への寄附という提案についても、寄附金を教育に生かしてほしいとの希望が多いことや、学校を指定し寄附する人もいることから、今後も意向に沿えるように誠意を持って対応していきたい。

防災行政無線の

改善を

◎中谷議員 災害情報が直ちに市民に理解されるよう、防災行政無線による緊急地震速報などの放送をサイレン音だけでなく音声による放送へ改善する、報知音を防災訓練で実際に使用する、防災ラジオで防災無線を補完するなどの対策を求めたい。

▲消防長 緊急地震速報の発令は、サイレンの吹鳴に引き続き災害情報などの音声放送が流れ



る手順となっており、避難勧告も音声放送と併用して運用している。また、防災訓練でも音声データを直接聞いてもらい周知に努めるとともに、防災ラジオについても、導入に伴う費用対効果などを検討したい。

奨学金の返済支援

市独自の制度を

◎三木議員 病気や失業などにより、奨学金を返済したくても返済できない状況がある。丸亀市独自で奨学金の返済支援制度を創設する考えはないのか。

▲健康福祉部長 奨学金は、経済的理由で進学を断念することがないよう、学生を支えるためのものであり、卒業後の収入が安定せず、奨学金の返済が困難な人の救済は、喫緊の課題である。有効な手立ての速やかな実施が望まれるが、本制度は国の責任で実施すべきものであることから、本市独自の支援は困難だと考えている。

市民の相談窓口 設置する考えは

◎加藤議員 要望や困り事を市民は市役所のどこに持っていったらいいのか分からない。市民からの相談をいったん受けとめる場が市役所の中に必要である。市役所の組織として市民の相談窓口を市役所の入口付近に設置すべきと考えるが、どうか。

▲企画財政部長 市役所の市民相談事業の窓口をできる限り集約し、市民からの相談をいったん聞く体制づくりが必要だと考えている。相談窓口の場所も市民の目につきやすく、高齢者や障害者も手軽に利用できる場所が適切だと認識している。現在検討段階だが、市民に一步近づいた市役所づくりに努める。

丸亀城の改善策 市の考えを問う

◎内田議員 丸亀城の天守は、照明が暗く、階段が急である。入場者の安全のため改善策はないのか。また、天守へ続く見返り坂は急勾配の坂道だが、手す

りを設けることはできないか。

▲教育部長 天守2階部分はやや暗いので、照明施設の設置が可能かどうか今後検討していきたい。天守の階段は重要文化財という性質上、構造変更は難しいことから、階段の上り下りの際の注意喚起を促す表示板を設置し安全管理に努める。

▲都市整備部長 丸亀城は文化財の保護が最優先されるため手すりの新たな設置は難しいと考えるが、実現可能な方法を検討したい。

ドクターヘリ発着 離島にヘリポートを

◎神田議員 高齢者の緊急疾患は脳に由来するものが多く、安静かつ緊急に移送することが重要であるため、ドクターヘリの発着が必要になってくる。離島の診療所がある場所に、地元住民からも要望があるヘリポートの設置が必要でないか。

▲生活環境部長 緊急の場合には、周囲に建物などの障害物がなく、平坦で一定の広さがあれば、ドクターヘリの離着陸は可能である。現在広島診療所前

は埋め立て整備を進めている場所であり、関係機関と協議のうえ、簡易ヘリポートを整備する方向で検討していきたい。

消費税の増税

市長の考えを問う

◎尾崎議員 消費税には、貧しい者にも重い負担をかける点や、高所得者ほど税負担が軽くなる点など大きな弊害がある。市長は消費税をどう認識しているか。また、消費税の増税に市長は賛成か、反対か。

▲市長 消費税は、世代間の負担の公平性が図れる一方、議員ご指摘の逆進性や累進性に乏しい点など、メリット、デメリットが常に議論の対象となる税制だと認識している。現時点では消費税の増税を断行すべき条件が整っておらず、それより先にすべき課題や選択肢が大いにあることから、来年4月1日の増税には反対である。

議会だよりは、議員の質問の中から1項目を選び、質問・答弁の内容を要約のうえ掲載しています。

教育民生委員会

7月31日
～
8月2日

和光市
・
三条市

放課後児童クラブ

スマートウェルネスシティ

放課後に友達や指導員と過ごす「放課後児童クラブ」。今後に向けて丸亀市でもさまざまな議論が行われている。これからの方向性を決める一端として、積極的に取り組んでいる和光市へ視察。本市同様、放課後子ども教室との一体的運用は行われていないが、密に連携を図り、子どもたちに対してよりよい環境づくりを行う必要性があることを改めて感じた。

健康で幸せな「健幸」づくり



和光市で説明を受ける



北原保育クラブ（和光市）

は「まち」づくりから、を掲げる三条市を視察。健康、暮らし、にぎわい、生きがい（就労）を軸に、全市挙げての戦略。特に食育に関しては「米どころ新潟」のプライドを感じる取り組みが行っていた。本市も多角的な方面から、総合的「まち」づくりに取り組みたい。



三条市でのあいさつ

常任委員会視察

都市経済委員会

7月24日
～
7月26日

小松市
・
高岡市
・
宝塚市

まちなか再生

体験滞在型観光

消防通信指令

南加賀地域の中心都市小松市では、歴史的資源の保存と活用や、本市と同じ城下町でのまちなか再生の取り組みが進んでいる。現場の町家へも出向き、住人と話す機会を持つことで課題も浮かび上がったが、行政と住人の共通認識に展望を見ることができた。



小松市の町家

高岡市は「前田家」400年の歴史を誇る町ながら、通過型観光となっている。歴史と文化を生かし、食のブランド化を図

り、滞在型観光への振興に取り組んでいる。また、地域の特長を生かした若手の育成など、参考にしていきたい。



高岡市で説明を受ける

宝塚市の消防指令センターは、2市1町の共同運用であり、本市も来年4月から普通寺市、多度津町との共同運用が予定されている。システム整備費や維持管理費の縮減が期待されるが、宝塚市の職員の使命感にあふれた説明に学ぶことも大であった。



消防通信司令室（宝塚市）